

《どうでもいい話、その 566》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

今回は、最近のテレビニュース報道についてケチをつけます。先日、石川県能登半島で夕方に地震がありました。その時、NHK全国放送は番組を中断し「6時42分ごろ石川県能登地方で震度5弱の地震がありました。この地震による津波の心配はありません」のニュースを30分以上流しました。それも特に被害情報がないのでアナウンサーは「6時42分ごろ・・・」の同じセリフを何十回も繰り返すだけです。（大した地震じゃーないってことは分かった。しつこいっつーの！）そのうちに「60代の男性が足に軽い怪我をしました」だと（人が軽い怪我をしたことを全国にニュースで伝えるのなら、毎日朝から晩まで怪我のニュースだらけになるぞ！）また、新型コロナ感染のニュースも毎日毎回です。（じゃー、他の出来事と比べ、そんなに伝えなければならないことなのか？）例えばコロナの前は毎年インフルエンザが流行しました。日本でのインフルエンザ感染者数は年間約1千万人で、人口の約8%、死者は1万人/年以上でした。それに比べコロナは2年間で感染者数は170万人、年間で比較するとインフルエンザの一割以下、死者も2年間で1万8千人とインフルエンザより少ないです。（じゃー、インフルエンザの報道を、今のコロナの様に報道していたのか？それとマスクも密も気にしてなかったじゃないか！）がん患者、交通事故死傷者なども同様で、毎年慣例になると新鮮味がなく、どーってことないので大きく扱いません。コロナも毎年になると、報道は、時々ほんのちょこっとだけになるでしょう。（報道もホドホドに！）

岩波より